

## かいいい KR18-15 航海により南西諸島周辺から得られた深海生物

○角井敬知・自見直人・大矢佑基（北海道大学）、藤原義弘・矢吹彬憲（海洋研究開発機構）、下村通誉（京都大学）、柳 研介（千葉県立中央博物館）、上野大輔（鹿児島大学）、広瀬雅人（北里大学）、田中隼人（葛西臨海水族園）、藤本心太（東北大学）、小川晟人（東京大学）、岡本章玄（物質・材料研究機構）、久野光輝（日本海洋事業）

深海域は高水圧・低水温・暗黒・貧栄養といった過酷な物理化学的条件にあるにも関わらず、多くの動物が進出している (Jamieson 2016)。彼らはそれら物理化学的条件に対抗する適応形質を獲得することで深海域に進出してきたはずである。しかし、深海進出に関わる適応形質については、化学合成生態系の構成員において提案されている共生細菌や特殊な酵素の獲得 (藤倉ほか 2008) を除き、あまり明らかになっていない。深海進出に関わる普遍的な適応形質とは何なのか。この間に答えるには、幅広い分類群を対象に、浅海性種－深海性種間での比較形態学的検証を行い、分類群横断的に見られる深海性種固有の特徴を見出すという作業を踏む必要がある。

以上の背景から代表発表者が課題提案者を務める研究課題「多系統群から探る普遍的な極限環境適応機構の解明」は計画され、研究課題「悪玉細菌群の制御を目的とした広宿主性ウイルスの探索」(課題提案者：岡本章玄) との相乗りで、かいいい KR18-15 航海で実施された。詳細な形態学的観察は現在進行中であるため、本発表では上記相乗り課題との共同潜航として実施した 3 潜航 (伊平屋北オリジナルサイト水深約 1000 m ; 宮古島南東海域水深約 2000 m ; 同海域水深約 5000 m) により得られた深海性無脊椎動物について報告する。